資治通鑑　第 131 巻

令和 3 年 9 月 19 日

【宋紀十三】　柔兆敦牂，一年。

■南宋、●北魏、続国訳漢文大成．経子史部 第 8 巻 053p、尋陽の鄧琬・劉子勲側勢力は青字

太宗明皇帝上之下泰始二年（丙午，４６６年）

【鄧琬と子勲の挙兵拡大】

●春，正月，己丑（１日）朔，魏は大赦し，改元して天安とす。(8-053p)

■癸巳（５日），會稽太守の尋陽王の子房（前年尋陽に応じる）を征（続は徴）して撫軍將軍と為し，巴陵王の休若を以て之に代える。（西晋・尋陽→隋・江州、九江→唐・江州、潯陽、江州）

■甲午（６日），中外は戒嚴す。司徒の建安王の休仁を以て都督征討諸軍事，車騎將軍と為し、江州刺史王玄謨を之の副とす。休仁は南州（安徽省蕪湖道當塗県、現・馬鞍山市当塗県）に軍し，沈攸之を以て尋陽太守と為し，兵を將いて虎檻（安徽省蕪湖道蕪湖県西南江中、現・蕪湖市湾沚区）に屯す。時に玄謨は未だ發せず，前鋒の凡そ十軍は，絡繹（らくえき）として繼いで至る。每夜各々は姓號を立てて，相い稟受（ひんじゅ）せず。攸之は諸將に謂って曰く、「今衆軍の姓號は同じせず，若し耕夫、漁父有れば夜は相い呵叱（かしつ）し，便ち駭亂に致り，敗之道を取る也。(8-054p)一軍に就きて號を取るを請う。」

衆は鹹（み）な之に從う。

■［鄧琬は晉安王の子勲を即位させる］鄧琬は符瑞を稱說し，路太后の璽書を受けると詐稱し，將佐を帥いて晉安王の子勲に尊（続は號）を上（たてまつ）る。乙未（７日），子勲は尋陽にて皇帝に即位し，改元して義嘉とす。安陸王の子綏を司徒、揚州刺史と為す。尋陽王の子房、臨海王の子頊を並べて開府儀同三司を加える。鄧琬を以て尚書右僕射と為し，張悅を吏部尚書と為し，袁顗に尚書左僕射を加える。自餘の將佐及び諸州郡を，官に除し爵號を進めて各々差有り。

■丙申（８日），征虜司馬の申令孫を以て徐州刺史と為す。令孫は，坦（申坦は元嘉孝建の将帥）之子也。司州を義陽（河南省汝陽道信陽県の南、現・信陽市周辺）に置き，義陽内史の龐孟虯を以て司州（文帝元嘉末に汝南に置く。孝武帝大明中に省廃し復置く。義陽・随陽・安陸・南汝南の四郡）刺史と為す。

■［薛安都など尋陽勢力の拡大と混乱］（薛索児と柳光世が安都の諸子や係累を引き連れて建康を脱出し、徐州に逃れてきたので）徐州刺史の薛安都、冀州刺史の清河の崔道固（子の崔景徽と傅霊越も）は皆な尋陽に應じて擧兵す。上は青州刺史の沈文秀にて徵兵させ，文秀は其の將の平原の劉彌之等（張霊慶・崔僧琁の 3 軍）を遣わし兵を將いて建康に赴かしむ。會々薛安都は遣使して文秀を邀（むか）え，文秀は更に彌之等をして安都に應ぜ令む。濟陰太守の申闡は睢陵（濟陰郡の県、江蘇省徐海道睢寧県、現・徐州市睢寧県）に據りて建康に應じ，安都は其の從子の直閤將軍の索兒、太原（文帝元嘉十年に済南・太山を割きて太原郡を立つ。山東省済南道長清県、現・済南市長清区）太守の清河の傅靈越等を遣わして之（申闡の睢陵）を攻めしむ。闡は，令孫之弟也。安都の婿の裴祖隆は下邳を守り，劉彌之は下邳に至り，更に領する所を以て建康に應じ（明帝側に旗幟を改め），祖隆を襲擊す。（崔僧琁は劉弥之に従わず、部下を率いて安都に帰順した。）祖隆の兵は敗れ，征北參軍の垣崇祖は與に彭城に奔る。崇祖は，護之（垣護之は元嘉孝建に将となり功有り）之從子也。彌之の族人の北海太守の懷恭、從子の善明は皆な擧兵し以て彌之に應じ，薛索兒は之を聞き，睢陵（すいりょう）を釋（と）き，兵を引いて彌之を擊つ。彌之は戰い敗れ，走って北海を保つ。申令孫は進みて淮陽（江蘇省徐海道宿遷県、現・宿遷市宿豫区）に據き，（明帝に叛意を抱き密かに）索兒に降るを請う。龐孟虯は亦た命を受けず，擧兵して尋陽に應ず。

■帝は尋陽王の長史の行會稽郡事の孔覬を召して太子の詹事と為し，平西司馬の庾業を以て之に代えらしめ、又た都水使者（水利、戦艦管理の役）の孔璪を遣わして東に入り慰勞せしむ。璪は覬を說いて、
「建康は虛弱にして，五郡（東揚州の統べる）を擁して以て袁、鄧に應ずるに如かざるを以てす。」
覬は遂に兵を發し，檄を馳せて尋陽を奉ずる。吳郡太守の顧琛、吳興太守の王曇生、義興太守の劉延熙、晉陵太守の袁標は皆な郡に據りて之に應ず。上は又た庾業を以て延熙に代え義興（太守）と為す，業は長塘湖に至り，即ち延熙と合す。
■［益州刺史の蕭惠開］益州刺史の蕭惠開（蕭思話の子）は，晉安王の子勳の擧兵を聞き，將佐を集めて之に謂って曰く、
「湘東は，太祖之昭。晉安は，世祖之穆。其の當璧に於けるや，(8-055p)並びて不可無し。但だ景和（続は廃帝）は昏しと雖も，本是れ世祖之嗣。社稷に任ぜす，其の次は猶ほ多し。吾は世祖之眷を荷い，當に九江（江州）を推奉すべし。」
乃ち巴郡太守費欣壽を遣わして五千人を將して東下せしむ。是に於いて湘州行事の何慧文、廣州刺史の袁曇遠、梁州刺史の柳元怙、山陽太守の程天祚は皆な子勳に附く。元怙は，元景之從兄也。

【蔡興宗の巻き返し】

■［蔡興宗の緩和策］是の歲，四方の貢計（貢ぎ物・計算帳簿）は皆な尋陽に歸し，朝廷の保つ所は，唯だ丹陽、淮南等の數郡にして，其の間の諸縣は或いは子勳に應じる。東兵は已に永世（吳は溧陽を分けて永年県となし、晉武帝太泰元年に永世県と為し丹陽郡に属す、江蘇省金陵道溧陽県の南、現・常州市溧陽市）に至り，宮省は危懼す。上は群臣を集め以て成敗を謀る。蔡興宗は曰く、
「今普天は同じく叛し，人は異志有り（続はこの部分無し）。宜しく之を鎮ずるに靜を以てし，信に至りて人を待たん。叛者の親戚は布して宮省に在り，若し法を以て之を繩（続はただと読む）すれば，則ち士（続は土）は立ちどころに崩れるに至らん，宜しく罪を相い及ばざる之義（連座しない）を明らかにすべし。物情は既に定まれば，人は戰心有らん，六軍は精勇にして，器甲は犀利，以て習わざる之兵を待てば，其の勢いは相い萬せん耳。願はくは陛下は憂う勿かれ。」
上は之を善しとする。
■［豫州刺史の殷琰］建武司馬の劉順は豫州刺史の殷琰を說いて尋陽に應ぜ使め，琰は建康に家在るを以て，未だ許さず。右衛將軍の柳光世は省內より出でて彭城に奔り，壽陽を過ぎ，建康は必ず守る能たわずと言う。琰は之を信じ，且つ素より部曲無く，土豪の前右軍參軍の杜叔寶（杜坦の子）等の制する所と為り，已むを得ず而して之に從う。琰は叔寶を以て長史と為し，內外の軍事は，皆な叔寶に之を專らとす。上は蔡興宗に謂って曰く、
「諸處に未だ平らかならず，殷琰は已に復た逆を同じくす。頃日人情は雲何ん？事は當に濟るべきや不や？」
興宗は曰く、（胡三省曰く、湘王位を簒ぐは其の本心に非ず。尋陽兵を起すは名正しく言順なり。）
「之に逆と順は，臣は以て辨ずる無し。今は商旅斷絕すれども，米は甚だ豐賤（前朝の績なり）なり，四方は雲合し，而して人情は更に安し。此くを以て之を卜するに，清蕩は必ず可なり。但だ臣之憂える所は，更に事後に在り，猶ほ羊公（晉の武帝の羊祜、80 巻晉の武帝咸寧四年に見える）言う、『既に平之後は，方に當に聖慮を勞すべき耳。』のごとし」
上は曰く、

「誠に卿の言の如し。」（蔡興宗は帝の心がけ次第と言っている）
上は**琰**が尋陽に附くは本意に非ざるを知り，乃ち更に其の家を厚く撫でて以て之を招く。
■［**周矜敗れる**］汝南（懸瓠に治す）、新蔡（宋は汝南に帖治す）の二郡太守の**周矜**は懸瓠に於いて兵を起こして以て建康に應ず。**袁顗**は**矜**の司馬の汝南の**常珍奇**を誘いて**矜**を執り，之を斬り，**珍奇**を以て代わりて太守と為す。
■［**垣榮祖は薛安都を説けず**］**上**は冗従僕射の**垣榮祖**（垣氏は略陽より南に帰し世々青洲徐州に在りて功を立て、士人の信重する所となる故に）をして徐州に還り**薛安都**を說か使め，**安都**は曰く、
「今京都（建康）には百里の地無く，(8-056p)攻圍して勝ちを取るを論ぜず，自ら拍手して笑殺す可し。且つ**我**は**孝武**に負くを欲せず。」
榮祖は曰く、
「**孝武**之行いは，餘殃に致るに足る（孝武帝の不善の積は必ず餘殃あり、貪淫奢虐にして人倫の道盡くので榮祖は指摘），今は天下は雷同すと雖も，正に是れ死を速かにせん，能く為す無き也。」
安都は従わず，因りて**榮祖**を留めて將と為さ使む。**榮祖**は，**崇祖**之従父兄也。

■［**兗州刺史の殷孝祖の入朝で逆転**］兗州刺史の**殷孝祖**之甥の司法（続は徒につくるべしと）参軍の潁川の**葛僧韶**は，**殷孝祖**に（続は徴して）入朝を請い，**上**は之を遣わす。時に**薛索兒**は津逕に屯據し，**僧韶**は間行して至るを得，**孝祖**に說いて曰く、
「**景和**は凶狂にして，開闢未だ有らず。朝野は危を極め，命を漏刻に假りる（命は朝夕も保ち難い）。**主上**は兇を夷げ暴を翦り，更に天地を造り，國亂れ朝危うし，宜しく長君を立てん。而るに群迷は相い煽ぎ，構造するに端無く，利を幼弱に貪り，競いて希望を懷く。天道をして逆を助け使め，群凶の事申びれば，則ち主は幼く時は艱に，權柄は一ならず，兵難は互いに起き，豈に自ら容るる之地有らん！舅は少きとき功を立てる之志有り，若し能く濟（濟河）主の勇を控き，還りて朝廷を奉じれば，唯だ主を匡して亂を靜めるのみに非ず，乃ち以て竹帛に名を垂れる可し。」
孝祖は具に朝廷の消息を問い，**僧韶**は方に隨いてを酬譬し，並せて兵甲は精強にして，**主上**は前驅之任を以て委ねんと欲すを陳べる。**孝祖**は即日妻子を瑕丘（兗州の治所、山東省濟寧道滋陽県、現・濟寧市兗州区）に委ね，文武二千人を帥い，**僧韶**に隨いて建康に還る。時に四方は皆な尋陽に附き，朝廷は唯だ丹陽の一郡を保つのみ。而して永世令の**孔景宣**は復た叛し，義興の兵は垂々として延陵（晉の武帝は太康二年に曲阿の延陵郡を分けて延陵を立てて晉陵郡に属す、江蘇省金陵道丹陽県の南 30 里、現・鎮江市丹陽市）に至り，內外は憂危し，鹹な奔散せんと欲す。**孝祖**は忽ち至り，衆力は少なからず，傖（中原の人）楚（荊州の人）の壯士を並べ，人情は大いに安んず。甲辰（１６日），**孝祖**を進めて撫軍將軍と號し，節を假し、前鋒の諸軍事を督（続は都督）せしめ，遣りて虎檻に向わしめ，寵賚（たまもの）甚だ厚し。
■初め，**上**は東平の**畢衆敬**を遣わして兗州に詣りて人を募らしめ，彭城に至り，**薛安都**は利害を以て之を說き，**上**の命を矯して**衆敬**を以て兗州の事を行わしめ，**衆敬**は之に從う。**殷孝祖**は司馬の**劉文石**をして瑕丘を守ら使め，**衆敬**は兵を引いて擊ちて之を殺す。**安都**は素より**孝祖**と隙有り，**衆敬**をして**孝祖**の諸子を（続は盡く+）殺さ使む。州境は皆な之に附き，唯だ東平太守の**申纂**は無鹽（漢晉より東平県、山東省東臨道東平県の東、現・泰安市東平県）に據り，從わず。**纂**は，**鐘**（95 卷晉成帝咸和九年に見える）之曾孫也。

■［**父子兄弟の罪免除で味方を増やす**］丙午（１８日），**上**は親ら兵を總べ，出でて中堂に頓す。辛亥（２

３日），山陽王の**休祐**を以て豫州刺史と為し，輔國將軍の彭城の**劉勉**（続は劉勔）、寧朔將軍の廣陵の**呂安國**等の諸軍を督して西に殷琰を討たしむ。巴陵王の**休若**をして建威將軍の吳興の**沈懷明**、尚書の**張永**、輔國將軍の**蕭道成**等の諸軍を督して東に孔凱を討たしむ。時に將士は多く東方人にして，父兄子弟は皆な已に凱に附く。**上**は因りて軍を送り，普く宣示を加えて曰く、

「**朕**は方に德を務め刑を簡にし，父子兄弟の罪を相い及ばざら使めて，(8-057p)順を助け逆に同（続は向）じる者を，一に從う所を以て斷と為す。卿等は當に深く此の懷を達して，親戚を以て慮と為す勿かれ也。」

衆は是に於いて大いに悅ぶ。凡そ叛く者の親黨の建康に在る者，皆な職に居ること故の如くせ使む。

■壬子（２４日），**路太后**は殂す。

■［巴陵王の休若の奮闘］孔覬は其の（続は將の+）孫曇瓘等を遣わして晉陵の九里（西北九里を名とす、江蘇省蘇常道武進県、現・常州市武進区）に軍せしめ，部陳は甚だ盛んなり。**沈懷明**は奔牛（江蘇省蘇常道武進県の西 31 里、現・常州市武進区）に至り，令（続は領）する所は寡弱にして，乃ち壘を築き自ら固める。**張永**は曲阿（江蘇省金陵道丹陽県、現・鎮江市丹陽市）に至り，未だ**懷明**の安否を知らず。百姓は驚き擾え，**永**は退いて延陵に還り，巴陵王の**休若**に就き，諸將帥は**休若**に鹹な勸めて退いて破岡を保つべしと。其の日，大寒にして，風雪甚だ猛に，塘埭（堤）は決壞し，衆は心の固まる無し。**休若**は宣令して、

「敢えて退かんと言う者は斬せん！」

衆は小しく定まり，乃ち壘を築いて甲を息む。尋ぎて**懷明**の書を得，賊定めて未だ進まず，軍主の**劉亮**は又た至り，兵力は轉た盛んにして，人情は乃ち安ず。**亮**は，**懷慎**之從孫也。

■［吳喜河東の善戰］殿中御史の**吳喜**は**世祖**の主書を以て事え，稍々遷りて河東（晉の成帝咸康三年に庾亮は荊州に鎭し、司州の僑戸を以て河東郡を立つ、湖北省荊南道松滋県、現・荊州市松滋市）太守に至（続は無し）る。是に至り，精兵三百を得て，死を東に致さんと請う。**上**は**喜**に建武將軍を假し，羽林の勇士を簡びてこれに配す。議者は以えらく、

「**喜**の刀筆の主者にして，未だ嘗て將と為らず，遣わす可からず。」

中書舍人の**巢尚之**は曰く、

「**喜**は昔**沈慶之**に隨い，屢々軍旅を經て，性は既に勇決にして，又た戰陳を習う。若し能く之に任ずれば，必ず成績有り。諸人は紛紜するは，皆な是れ才を分（続は別）かたざる耳。」

乃ち之を遣わす。**喜**は先時に數々使しいを東吳に奉じ，性は寬く厚く，至る所の人は並んで之を懷しむ。百姓は吳河東の來たるを聞き，皆な風を望みて降り散り，故に**喜**は至る所にて克捷す。

■永世の人の**徐崇之**は孔景宣を攻め，之を斬り，**喜**は**崇之**を版（続は板）して縣事を領せしむ。**喜**は國山（江蘇省蘇常道宜興県、現・無錫市宜興市）に至り，東軍に遇い，進擊し，大いに之を破る。國山より進みて吳城（江蘇省蘇常道無錫県、現・無錫市錫山区）に屯し，劉延熙は其の將の楊玄等を遣わして拒み戰わしむ。**喜**の兵力は甚だ弱く，玄等の衆は盛んなり。**喜**は奮擊して，之を斬る，進みて義興（江蘇省蘇常道宜興県、現・無錫市宜興市）に逼る。延熙は長橋を柵斷し，郡を保ち自ら守り，**喜**は壘を築いて之と與に相い持つ。

■［庾業は長塘湖口築城］庾業（尋陽側）は長塘湖口に於いて岸を夾みて築城し，衆七千人有り，延熙と遙かに相い應接す。**沈懷明**、**張永**は晉陵の軍と相い持ち，久しく決せず。外監の**朱幼擧**、司徒參軍の督護の**任農夫**は驍果（続は驍勇）にして膽力有りて，**上**は四百人を以て之を配し，助けて東を討た使む。**農夫**は延陵より長塘に出で，庾業は城を築き未だ合せず（続のこの部分を+）。**農夫**は馳せ往きて之を攻め，力戰し，大いに之を破り，庾業は城を棄てて義興に走る。**農夫**は其の船仗を收め，進みて義興に向かい，**吳喜**を助ける。二月，己未朔（１日），**喜**は水（荊溪の水）を渡りて郡城を攻め，兵を分けて諸壘を擊たしめ，高きに登

りて指麾し，四面をして倶に進ま令む者の若し。義興の人は大いに懼れ，(8-058p)諸壘は皆な潰す。延熙は水に赴きて死し，遂に義興に克つ。

●［魏の乙渾と馮太后の稱制］魏の丞相の太原王の**乙渾**は朝權を專制し，誅殺する所多し。安遠將軍の**賈秀**は吏曹（官吏選挙）の事を掌（つかさど）る，**渾**は屢々**秀**に言い，其の妻の為に**公主**と稱するを求め，**秀**は曰く、
「**公主**は豈に庶姓（国主の同姓に非らざる者）の宜しく稱すべき所ならんや！**秀**は寧ろ今日死を取るとも，後世の笑いを取る可からず！」
渾は怒り，罵って曰く、
「老奴の官，慳（けん）（吝嗇、清）なり！」
會々侍中の**拓跋丕**は**渾**の謀反を告げ，庚申（２日），**馮太后**は**渾**を收め，之を誅す。**秀**は，**彝**（108 巻晉の孝武帝太元 20 年にあり）之子。**丕**は，**烈帝**（拓跋翳槐の追諡）之玄孫也。**太后**は朝に臨みて稱制し，中書令の**高允**、中書侍郎の漁陽の**高閭**及び**賈秀**を引き共に大政に參せしむ。

【形勢大逆転】

■［諸軍四方に派遣し形成逆転］**沈懐明**、**張永**、**蕭道成**等は九里の西に軍し，東軍（晉安王の子勳側）と相い持つ。東軍は義興の敗れるを聞き，皆な震え恐れる。**上**は積射將軍の濟陽の**江方興**、御史の**王道隆**を遣わして晉陵に至り東軍の形勢を視せしむ。孔凱の將の孫曇扞、程扞宗等（続は無し）は五城を列ね，互いに相い連帶す。扞宗は城を猶ほ未だ固めず，**王道隆**は諸將と謀りて曰く、
「扞宗の城は既（続は猶）に未だ立たず，以て手を藉（か）りる（攻め取る）可く，上は聖旨に副（そ）い，下は衆氣を成すべし。」
辛酉（３日），**道隆**は所領を帥いて急に攻めて，之を抜き，扞宗の首を斬る。**永**等は因りて勝ちに乗り進みて曇璩等を撃ち，壬戌（４日），曇璩等は兵敗れ，袁村と倶に城を棄てて走り，遂に晉陵に克つ。
■**吳喜**の軍は義郷（浙江省銭塘道長興県、現・湖州市長興県）に至る。孔璨は吳興（浙江省銭塘道呉興県、現・湖州市呉興区）に屯し，南亭太守の王曇生は璨に詣りて事を計る。台軍の已に近きを聞き，璨は大いに懼れ，床（続は牀）より墮ちて，曰く、
「賞を懸けて購（あがな）う所は，唯だ我而して已む（我のみ）。今遽（にわか）に走らざれば，將に人の擒と為らんとす！」
遂に曇生と與に錢唐（浙江省錢唐道杭県、現・杭州市余杭区・西湖区・江干区）に奔る。**喜**は吳興に入り，**任農夫**は兵を引いて吳郡に向かい，顧琛は郡を棄てて會稽に奔る。**上**は四郡（晉陵・義興・呉興・呉郡）が既に平らぐを以て，乃ち**吳喜**を留めて**沈懐明**等の諸將を統べ使めて東に會稽を撃たしめ，**張永**等を召して北に彭城を撃たしめ，**江方興**等をして南に尋陽を撃たしむ。
■吏部尚書の**蔡興宗**を以て左僕射と為し，侍中の**褚淵**を吏部尚書と為す。
■［東軍主力崩壊］丁卯（９日），**吳喜**（続は吳喜の軍）は錢唐に至り，孔璨、王曇生は浙東に奔る。**喜**は強弩將軍の**任農夫**等を遣わして兵を引いて黄山浦（浙江省會稽道諸暨県、現・紹興市諸暨県）に向わしむ。東軍は岸に據りて寨を結び，**農夫**等は之を撃破す。**喜**は柳浦（浙江省錢塘道杭県、現・杭州市余杭区・西湖区・江干区）より渡り，西陵を取り，撃ちて庚業を斬る。會稽の人々は大いに懼れ，將士は多く奔亡し，孔凱は制する能わず。戊寅（２０日），上虞（浙江省會稽道上虞県の西、現・紹興市上虞区）の令の**王晏**は兵を起こして郡を攻め，凱は脊山に逃奔す。車騎從事中郎の**張綏**は府庫を封じ以て**吳喜**を待つ。己卯（２１日），**王晏**は入城し，**綏**を殺し，尋陽王の子房を別署にて執る。兵を縦ちて大きく掠し，府庫は皆な空となる。孔璨を獲えて，之を殺

す。庚辰（２２日），脊山の民は孔凱を縛って晏に送り，晏は之に謂って曰く、
「此の事は孔璋の為す所，卿の預かる事無く，首辭（自首する辭）を作す可し，(8-059p)當に相い為に申上すべし。」
凱は曰く、
「江東の處分は，身に由らざる莫し。罪を（人に）委ね活きるを求めるは，便ち是れ君の輩の意の行く耳。」
晏は乃ち之を斬る。顧琛、王曇生、袁標等は吳喜に詣りて罪に歸し，喜は皆な之を宥す。東軍の主は凡そ七十六人，陳に於（続は臨）いて斬は十七人，其の餘は皆な原宥(許しなだめる)す。
■［薛索兒は申闡を攻める］薛索兒は申闡を攻め，久しく下らず。申令孫をして睢陵に入り闡を說か使め，闡は出でて降り，索兒は令孫を並せて之を殺す。
■山陽王の休祐は歷陽に在り，輔國將軍の劉勉は小峴に進軍す。殷琰の署する所の南汝陰（江左は南汝陰を置き合肥に治す、安徽省安慶道合肥県、現・合肥市瑤海区）太守の裴季之は合肥を以て來降す。
■［鄧琬は横暴にて信を失う］鄧琬は性は鄙にして暗く貪吝，既に大權を執り，父子は官を賣り爵を鬻ぎ，婢僕をして市道に出でて販賣せ使む。酣歌し博弈し，日夜休まず。大いに自ら矜遇し，賓客は門に到り（続は者+），歷旬は前むを得ず。內事は悉く褚靈嗣等三人に委ね，群小は横恣し，競いて威福を為す。是に於いて士民は仇怨し，內外の心離れる。
■琬は孫沖之を遣わして龍驤將軍の薛常寶、陳紹宗、焦度等の兵一萬を帥いて前鋒と為し，赭圻（安徽省蕪湖道繁昌県、蕪湖市繁昌区）に據らしむ。沖之は道に於いて晉安王の子勳に書を與えて曰く、
「舟楫は已に辦じ，器械（続は糧仗）は亦た整い，三軍は踴躍し，人は命を效すを爭う。便ち流れに沿いて帆を掛け，直ちに白下（江蘇省金陵道江寧県、現・南京市江寧区）を取らんと欲す。願はくは速やかに陶亮の衆軍を遣わして兼行して相い接し，分けて新亭、南州に據らしめば，則ち一麾に定まる矣。」
子勳は沖之に左衛將軍を加える。陶亮を以て右衛將軍と為し，郢、荊、湘、梁、雍五州の兵合わせて二萬人を統べ，一時に俱に下らしむ。陶亮は本より干（続は幹）略は無く，建安王の休仁が自ら上り，殷孝祖は又た至ると聞き，敢えて進まず，軍を鵲洲（安徽省蕪湖道繁昌県の西江中の洲、現・蕪湖市繁昌区）に屯す。
■［殷孝祖の人心離反と敗死］殷孝祖は其の誠節（鎭を棄てて勤王し妻子を顧みざる）を負み，諸將を陵轢す，台軍には父子兄弟の南（尋陽軍）に在る者有り，孝祖は悉く推治せんと欲す。是に由りて人情は乖離し，樂しみて用を為すは莫し。寧朔將軍の沈攸之，內に將士を撫で，外に群帥を諧げ，衆は並んで之を賴む。孝祖は戰う毎に，常に鼓蓋を以て自ら隨い，軍中の人は相い謂う、
「殷は軍を統べて死將と謂う可き矣！今賊と鋒を交え，而して羽儀を以て自ら標を顯わす，若し善く射る者十人共に之を射てば，斃れざるを欲すとも，得る乎？」
三月，庚寅（３日），衆軍は水陸並進し，赭圻を攻める。陶亮等は兵を引き之を救い，孝祖は陳に於いて流矢の中たる所と為り，死す。軍主の范潛は五百人を帥いて亮に降る。人情は震駭し，並びて、
「沈攸之は宜しく孝祖に代わりて統を為すべし」
と謂う。
■時に建安王の休仁は虎檻に屯（続は軍）し，寧朔將軍の江方興、龍驤將軍の襄陽の劉靈を遣わして各々三千人を將して赭圻に赴く。攸之は以て為す、
「孝祖の既に死し，亮等は勝ちに乘るの之心有り，明日若し更に攻めざれば，則ち之に示すに弱を以てす。方興は各位相亞（二人とも寧朔將軍）し，(8-060p)必ず己が下たらず。軍政は壹ならざれば，敗を致す之由也。」

と。乃ち諸軍主を帥いて**方興**に詣りて曰く、
「今四方は並びて反き，國家の保つ所，復た百里之地無し。唯だ**殷孝祖**が朝廷の委頼する所と為す有り，鋒鏑は裁(わず)かに交わり，屍を輿し而して反し，文武は氣を喪い，朝野は心に危うしとする。事之濟否は，唯だ旦（続は明旦）の一戦の時に在り。戦いて若し捷たざれば，則ち大事は去る矣。詰朝之事は，諸人は或（続は咸）いは吾應に之を統べるべしと謂う，自ら卜するに懦薄(だはく)にして，干略（政治的才能・謀略）は卿に如かず。今輒ち相い推して統と為し，但だ當に相い與に力を戮(あわ)すべき耳。」
方興は甚だ悦び，許諾す。**攸之**は既に出で，諸軍主並びに之を尤(とが)める，**攸之**は曰く、
「**吾**は本々國を濟(すく)い以て家を活かんとす，豈に此（続は彼此）之升降を計らんや！且つ**我**は能く**彼**に下れども，**彼**は必ず**我**を下る能わず。共に艱難を濟(すく)うには，豈に自ら同異を措く可けん也！」
孫沖之は陶亮に謂って曰く、
「**孝祖**は梟將なるに，一戦して便ち死し，天下の事は定まる矣，須らく復た戦わざれば，便ち當に直ちに京都を取らんや。」
亮は従わず。(2021-0916)
■辛卯（４日），**方興**は諸軍を帥いて進み戦い，建安王の**休仁**は又た軍主の**郭季之**、歩兵校尉の**杜幼文**、屯騎校尉の**垣恭祖**、龍驤將軍で濟地の頓生（続はこの部分錯誤と、宋書鄧琬傳には頓生）、京兆の**段佛榮**等三萬人を遣わして往きて會戦しめ，寅自り午に及び，大いに之を破り，追奔（続は北）して姥山（安徽省蕪湖道當塗県西北45里の慈姥山、巣湖の中に姥山あり、現・馬鞍山市当塗県）に至り而して還る。**幼文**は，**驤**之子也。
孫沖子は湖（安徽省蕪湖道當塗県、現・馬鞍山市当塗県）、白口（巣湖口・白水口、安徽省安慶道無為県、現・蕪湖市無為市）に於いて二城を築き，軍主の竟陵の**張興世**は攻めて之を抜く。

【沈攸之主役へ】

■［殷孝祖に代わりて沈攸之輔國將軍］壬辰（５日），詔して**沈攸之**を以て輔國將軍と為し、節を假し，**殷孝祖**に代わりて前鋒諸軍事を督せしむ。
■陶亮は湖、白の二城守らずを聞き，大いに懼れ，急に孫沖之を召して鵲尾に還らしめ，薛常寶等を留めて赭圻を守らしむ。先に姥山及び諸岡に於いて營寨を分立し，亦た悉く（続は各）散りて還り，共に濃湖（鵲尾の下にあり、安徽省蕪湖道繁昌県、現・蕪湖市繁昌区）を保つ。
■［国用足らず、官位乱発］時に軍旅は大いに起こり，國の用は足らず，民の錢穀上(たてまつ)る者を募りて，賜るに荒縣、荒郡（極辺地の戦火でで荒れ果てた土地、名のみ），或は五品から三品に至るまでの散官をもってすること有差。
■［休仁の將士撫循］軍中に食少なく，建安王の**休仁**は將士を撫循し，其の豐儉を均(ひと)しくして，死を吊(とむら)（続は弔）い傷を問いて，身親(みずか)（続は自）ら恤を隱す（哀れむ）。故に十萬之衆は，心を離す有るは莫し。
■［劉胡の反撃］鄧琬は其の豫州刺史の劉胡を遣わして衆三萬、鐵騎二千を帥いて，東に鵲尾に屯せしめ，並びに舊兵（尋陽が先に遣わした陶亮・孫沖之等の兵）の凡そ十餘萬あり。胡は，宿將なりて，勇健にして權略多く，屢々の戦功有り，將士は之を畏る。司徒中兵參軍の冠軍の蔡那（南陽郡冠軍県の人、劉胡は襄陽より東下するときに蔡那の子弟を捕えて軍に従う）は，子弟は襄陽に在り，胡が戦う毎に，之を城外を懸（念）す。那は進みて戦い顧りみず。**吳喜**は既に三吳を定め，所領の五千人を帥い，並せて資實を運び，(8-061p)赭圻に至る。
■薛索兒は馬歩（騎兵歩兵）の萬餘人を將して睢陵より淮を渡り，進みて青、冀二州刺史の**張永**の營に逼る。丙申（９日），詔して南徐州刺史の桂陽王の**休范**を北討諸軍事を統べ，進みて廣陵に據らしむ。又た詔し

て**蕭道成**に兵を将いて**永**を救わしむ。

■［尋陽王の子房を許す］戊戌（１１日），尋陽王の子房は建康に至り，**上**は之を宥し，爵を貶して松滋侯と為す。

●庚子（１３日），魏は陝西王の**源賀**を以て太尉と為す。

■［王敬則らは壽陽攻略］**上**は寧朔將軍の**劉懷珍**を遣わして龍驤將軍の**王敬則**等に歩騎五千を帥い，**劉勉**を助けて壽陽を討ちたしめ，廬江太守の劉道蔚を斬る。**懷珍**は，**善明**（劉彌之の従子）之従子也。

■［黄回は馬頭太守王廣元を撃つ］中書舍人の**戴明寶**は**上**に啟し，軍主の竟陵の**黄回**を遣わして兵を募り尋陽の署する所の馬頭（安徽省淮泗道懐遠県の東南、現・蚌埠市懐遠県）太守の王廣元を撃ちて斬らしむ。

■前の奉朝請の壽陽の**鄭黑**は，淮上に於いて兵を起こし以て建康に應じ，東に殷琰を扞ぎ，西に常珍奇を拒む。乙巳（１８日），**黑**を以て司州刺史と為す。

■［劉順は柳倫、皇甫道烈を制せず、機を失う］（東軍の）殷琰の將の劉順、柳倫、皇甫道烈、龐天生等は馬歩八千人にして東に宛唐（水經注には死虖に作り、杜佑通典には死虎に作る。安徽省淮泗道壽県の東、現・淮南市寿県）に據す。（建康側の）**劉勉**は衆軍を帥いて並進し，順を去ること數里に營を立つ。時に琰の遣ずる所の諸軍は，並びて順の節度を受ける，而るに皇甫道烈は土豪にして，柳倫は台之遣わす所なり，順は本より卑微なるを以て，唯だ二軍を經督（続は統督）せ使めず。**勉**は始めて至るも，塹壘は未だ立たず。順は之を撃たんと欲するに，道烈，倫は同ぜず，順は獨り進む能わず，乃ち止む。**勉**の營は既に立ち，復た攻める可からず，因りて相い守り持つ。

■壬子（２５日），新錢（元嘉の四鋳銭）を斷ち，專ら古錢を用いる。

■［赭圻の補給戦と占領］（建康側の）**沈攸之**は諸軍を帥いて赭圻を圍む。薛常寶等は糧盡き，劉胡に告げて救いを求む。胡は囊を以て米を盛り，流査（流れる浮木）及び船腹に系し，陽（表面的に）って船を覆し，風に順いて流し下し以て之に餉る。**沈攸之**は其の異（変）有るを疑い，人を遣わして船及び流査を取らしめ，大いに囊米を得る。丙辰（２９日），劉胡は歩卒一萬を帥い，夜，山を斫りて道を開き，布囊を以て米を運び赭圻に餉る。平旦，城下に至り，猶ほ小塹を隔てて，未だ入れる能わず。**沈攸之**は諸軍を帥いて之を邀へ，殊に死戰し，胡の衆は大敗し，糧を棄て甲を棄て，山に緣いて走り，斬獲は甚だ衆し。胡は瘡を被り，僅かに營に還るを得る。常寶等は惶懼し，夏，四月，辛酉（４日），城を開いて圍を突き，走りて胡の軍に還る。**攸之**は赭圻の城を拔き，其の寧朔將軍の沈懷寶等を斬り，數千人の降るを納める。陳紹宗は單舸にて鵲尾に奔る。建安王の**休仁**は虎檻より進みて赭圻に屯す。

■［辞令書に始めて黄紙を使う］劉胡等の兵は猶ほ盛ん。**上**は人情を綏慰せんと欲し，吏部尚書の**褚淵**を遣わして虎檻に至り，(8-062p)將士を選用せしむ。時に軍功を以て官に除せらるる者は衆く，版（続は板、辞令書、魏晋より梁陳に至まで板あり長さ一尺二寸厚さ一寸幅七寸）を供する能わず，始めて黄紙を用いる。

■［袁顗は雍州之衆を悉くして反撃］鄧琬は晉安王の子勳之命を以て，袁顗を征（続は徴）して尋陽に下らしめ，顗は雍州之衆を悉くして馳せ下る。琬は黄門侍郎の劉道憲を以て荊州の事を行わしむ。侍中の孔道存をして雍州の事を行わしむ。上庸太守の**柳世隆**は虚に乗り襄陽を襲い，克たず。**世隆**は，**元景**之弟子也。

■［劉彌之の戦死と沈文秀の奮戦］散騎侍郎の**明僧暠**は兵を起こして沈文秀を攻め、以て建康に應ず。壬午（２５日）僧暠（この部分は続により補充）を以て青州刺史と為す。平原、樂安（武帝は斉を平らげ平原郡を梁鄒に置

き、樂安郡を千乘に置く）二郡太守の**王玄默**は琅邪に據り（郡で挙兵せず），清河、廣川（武帝は清河郡を盤陽に置き、廣川郡を武彊に置く）二郡太守の**王玄邈**は盤陽（山東省済南道淄川県、現・淄博市淄川区）城に據り，高陽（文帝は樂安に置く）、勃海（孝武帝は臨淄に置く）二郡太守の**劉乘民**は臨濟（山東省済南道高苑県）城に據り，並びて兵を起こして以て建康に應ず。**玄邈**は，**玄謨**之従弟。**乘民**は，**彌之**之従子也。**沈文秀**は軍主の**解彥士**を遣わして北海を攻め，之を拔かしめ，**劉彌之**を殺す。**乘民**の従弟の**伯宗**は，郷黨を合わせて帥いて，復た北海を取り，因りて兵を引いて青州の治する所の東陽城（山東省膠東道益都県、現・濰坊市青州市）に向かう。**文秀**は之を拒み，**伯宗**は戰死す。**僧暠**、**玄默**、**玄邈**、**乘民**は兵を合わせて東陽城を攻め，戰う毎に，輒ち**文秀**の破る所と為り，離れて而して復た合し，此くの如き者は十餘，卒に克つ能わず。

【東西持久戰の様相】

■［持久戰の続行と補給戰］**杜淑寶**は謂えらく、台軍は歷陽に住まり，遽きて進む能わず。**劉勉**等の至るに及び，上下は震え恐る。**劉順**等は始め行くや，唯だ一月の糧を繼なぎ（続は齎し），既に**勉**と久しく相い持ち，糧は盡きる。**叔寶**は車千五百乘を發し，米を載せ**順**に餉らんとし，自ら五千の精兵を將して之を送る。**呂安國**は之を聞き，**劉勉**に於いて言って曰く、

「**順**（続は劉順）の精甲は八千，而して我が衆は半ばに居る能わず。相い持ちて既に久しく，強弱の勢いは殊に，更に復た推遷せば，則ち以て自立する無し。賴る所の者は，彼の糧は竭に行き，我の食は餘り有る耳。若し**叔寶**の米を至ら使めば，唯だ復た圖る可くは難きのみに非ず，**我**も亦た持久する能わず。今は唯だ間道より其の米車を襲い，彼の意あらずに出ずる有るのみ，若し能く之を制せば，當に戰わずして走らすべし矣。」

勉は以て然ると為し，營を守るに疲弱（弱兵）を以てし，精兵千人を簡んで**安國**及び龍驤將軍の**黃回**に配し，間道に從いて**順**の後に出，横塘（安徽省淮泗道壽県、現・淮南市寿県）に於いて之を抄め使む。

■［呂安國は米車を焼く］**安國**は始め行きて，二日食を熟し繼（続は齎）ぐ。食盡き，**叔寶**は至らず，將士は還らんと欲し，**安國**は曰く、

「卿等は旦に已に一食せり。今晩米車の至らざる容からず。若し其の至らざれば，夜去るも晩からず。」

叔寶は果たして至り，米車を以て函箱陳と為して，**叔寶**は外に於いて遊軍と為る。幢主の**楊促懷**は五百人を將して前に居り，**安國**、**回**等は擊ちて之を斬り，及び其の士卒は皆な盡く。**叔寶**は至り，**回**は勝ちに乘りて之を擊たんと欲し，(8-063p)**安國**は曰く、

「彼は將に自ら走らんとす，復た擊つを假らず。」

退いて三十里，止宿する。夜騎を遣わして參候せしめ，**叔寶**は果たして米車を棄てて走る。**安國**は復た夜往きて米車を焼き，牛二千餘頭を驅りて而して還る。

■五月，丁亥朔（１日），夜，**劉順**の衆は潰れ，**順**は淮西に走りて**常珍奇**（懸瓠により淮水の西にあり）に就く。是に於いて**劉勉**は鼓行し，進みて壽陽に向かう。**叔寶**は居民及び散卒を斂め，城を嬰して自ら守る。**勉**と諸軍は城外に分營す。

■［殷琰は降伏せず］山陽王の**休祐**は**殷琰**に書を與えて，為に利害を陳ず，**上**は又た御史の**王道隆**を遣わして詔を繼（続は齎）いで**琰**の罪を宥す。**勉**は**琰**に書を與えて，並（続は幷）びて**琰**の兄の**瑗**の子の**邈**の書を以て之に與う。**琰**と**叔寶**等は皆な降る意有り，而るに衆心は壹ならず，復た城を嬰して固守す。

■弋陽の西山蠻の**田益之**は兵を起こして建康に應じ，詔して**益之**を以て輔國將軍と為す。弋陽の西山の事を督せしむ。壬辰（６日），輔國將軍の**沈攸之**を以て雍州刺史と為す。丁未（２１日），尚書左僕射の**王**

景文を以て中軍將軍と為す。庚戌（２４日），寧朔將軍の**劉乘民**を以て冀州刺史と為す。

■甲寅（２８日），**昭太后**（路太后）を修寧陵（孝武帝の陵の東南）に葬す。

■［傅靈越の死］**張永**、**蕭道成**等は薛索兒と戰い，大いに之を破り，索兒は退いて石樑（江蘇省金陵道六合県、現・南京市六合区）を保つ。食盡きて而して潰れ，走りて樂平（安徽省淮泗道鳳陽県、現・滁州市鳳陽県）に向かい，**申令孫**の子の**孝叔**（父の仇を報いる）の斬る所と為る。薛安都の子の道智は走りて合肥に向かい，**裴季之**に詣りて降る。傅靈越は走りて淮西に至り，武衛將軍の沛郡の**王廣之**は生きて之を獲え，送りて**勉**に詣す。**勉**は其の叛逆を詰め，靈越は曰く、

「九州は義を唱える，豈に獨り我のみ在るや！薛公は智勇に專ら任ずるに能わず，委ねて子侄に付し，此くは其の敗れる所以也。人生は一死に於いて歸す，實に活を求めるに面無し。」

送りて建康に詣す。**上**は之を赦さんと欲し，靈越は辭を終に改めず，乃ち之を殺す。

■鄧琬は**劉胡**と**沈攸之**等相い持ち，久しく決まらずを以て，乃ち袁顗に加えて督征討諸軍事とす。六月，甲戌（１８日），顗は樓船千艘，戰士二萬を帥いて，來りて鵲尾に入る。顗は本から將の略無し，性は又た怯憿にして，軍中に在りて未だ嘗て戎服せず，語りて戰陳に及ばす，唯だ詩を賦して談義をする已，復た諸將を撫で接せず。劉胡は事を論じる毎に，酬對は甚だ簡。此に由りて大きく人情を失う，胡は常に切齒して恚恨（いこん）す。胡は南に米を運ぶに未だ至らずを以て，軍士の匱は乏しく顗に就きて襄陽之資を借りんとし，顗は許さず，曰く、

「都下の兩宅（袁顗の私宅。胡三省曰く、両敵相向かい、勝負の決、存亡はここに係る。袁顗乃ち襄陽の資を留めて以て私宅を経理せんと欲す。子勛既に敗れなば都下の陋宅豈顗の有ならんや）は未だ成らず，方に應に經理すべし。」

又た往來之言を信じて，云わく、

「建康は米は貴く，斗は數百に至る」

以て為すに將に攻めずして自ら潰ゆとし，甲（兵）を擁して以て之を待つ。

■**田益之**は蠻の衆の萬餘人を帥いて義陽（汝陽道信陽県南、現・信陽市周辺）を圍み，鄧琬は司州刺史の龐孟虯をして精兵五千を帥いて之を救わ使む，(8-064p)**益之**は戰わずして潰れ去る。

■安成太守の**劉襲**，始安の內史の**王**識之，建安內史の**趙道生**は，並びて郡を舉げて來降す。**襲**は，**道憐**（武帝の弟）之孫也。

■［蕭道成の世子の賧の活躍］**蕭道成**（後に斉公となる）の世子の**賧**は南康の贛（県、江西省贛南道贛県、現・贛州市贛県区）令為り，鄧琬は遣使して之を收系す。門客の蘭陵の**桓康**、**賧**の妻の**裴氏**及び其の子の**長懋**、**子良**はを擔いて山中に逃げ，**賧**の族人の**蕭欣祖**等と與に客に結びて百餘人を得，郡を攻め，獄を破りて**賧**を出す。南康の相の沈肅之は將吏を帥いて**賧**を追い，**賧**と與に戰い，之を擒とす。**賧**は自ら寧朔將軍と號し，郡（南康郡）に據りて兵を起こし，**劉襲**等と相い應ず。琬は中護軍の殷孚を以て豫章太守と為し，上流五郡（豫章・盧陵・臨川・安成・南康）を督して以て**襲**等を防かしむ。

■［各方面の戰い、建康の勢力拡大］衡陽內史の**王應之**は兵を起こして建康に應じ，湘州行事の何慧文を長沙に於いて襲擊す。**應之**と**慧文**は軍を捨てて身ずから戰し，慧文を斫り八創，慧文は**應之**を斫って足を斷つ。之を殺す。

■始興人の**劉嗣祖**等は郡に據りて兵を起こし建康に應じ，廣州刺史の袁曇遠は其の將の李萬周等を遣わして之を討たしむ。**嗣祖**は萬周を誑して云う、

「尋陽は已に平らぐ」。

萬周は還りて番禺を襲い，**曇遠**を擒にし，之を斬る。**上**は**萬周**を以て廣州の事を行わしむ。

■［武都の状況も混乱］初め，武都王の**楊元和**は白水（甘粛省渭川道武都県、現・隴南市武都区）に治し，微弱にして自ら立つ能わず，國を棄てて魏に奔る。**元和**の従弟**の僧嗣**は復た自立し，葭蘆に屯す。**費欣壽**は巴東に至り（蕭惠開は一月費欣壽を東下させる），巴東人の**任叔兒**は白帝に據り，自ら輔國將軍と號し，**欣壽**を撃ち，之を斬り，**叔兒**は遂に阻んで三峡（江水の巴東から夷陵に至り、廣溪峡・巫峡・四峻峡あり、現代の三峡ダム）を守る。**蕭惠開**は復た治中の**程法度**を遣わして兵三千を將して梁州に出でしめ，**楊僧嗣**は群氐を帥いて其の道を斷ち，間使は以て聞く。秋，七月，丁酉（１２日），**僧嗣**を以て北秦州刺史、武都王と為す。

■［張興世の待ち伏せの建議］諸軍は**袁顗**と濃湖に於いて相い拒み，久しく未だ決せず。龍驤將軍の**張興世**は建議して曰く、

「賊は上流に據り，兵は強く地は勝る。我は之を持つに餘り有ると雖も，而して之を制するに足らず。若し奇兵數千を以て潛かに其の上に出れば，險に因りて而して壁となり，利を見て而して動けば，其の首尾をして周遑し，進退疑阻せ使めて，中流は既に梗(ふさ)がり，糧運は自ずと艱(かた)く，此れは賊を制する之奇也。錢溪（安徽省蕪湖道銅陵県の揚子江沿い、現・銅陵市義安区）は江岸は最も狹く，大軍を去りて遠からず，下に洄汐（渦巻き）に臨み，船は下れば必ず來りて岸に泊まり，又た横浦（横の入江）有りて以て船を藏す可く，千人が險を守れば，萬人も過ぎる能わず。衝要之地は，此に於いて出るは莫かれ」

沈攸之、**吳喜**は並びて其の策に贊す。會々**龐孟虯**が（義陽より）兵を引いて來たりて**殷琰**を助ける，(8-065p)**劉勉**は遣使して援を求めるに甚だ急，建安王の**休仁**は**興世**を遣わして之を救わんと欲す。**沈攸之**は曰く、

「**孟虯**は蟻のように聚るとも，必ず能く為す無く，別將に馬步數千を遣わしめれば，以て相い制するに足るべし。**興世**之行は，是れ安危の大機なり。必ず輟(や)む可からず。」

乃ち**段佛榮**を遣わして兵を將いて**勉**を救わしめて，而して戰士七千、輕舸二百を選びて**興世**に配す。

■［張興世と**胡靈秀**の河を挟む進軍］**興世**は其の衆を帥いて流れを溯りて稍(やや)上り，尋(つ)ぎて復た退きて歸り，是くの如き者は累日。**劉胡**は之を聞き，笑って曰く、

「我は尚ほ敢えて彼を越えて下りて揚州（建康）を取らず，**張興世**は何物の人をや，輕々しく我の上を據かんと欲すか！」

之の備えを為さず。一夕，四更，便（利な）風に値(あ)い，**興世**は帆を舉げて直ちに前み，湖、白を渡り，鵲尾を過ぎる。**胡**は既に覺(さと)り，乃ち其の將の**胡靈秀**を遣わして兵を東岸に將いて之を翼して而して進ましむ。戊戌（１３日）夕，**興世**は景洪浦に宿し，**靈秀**も亦た留まる。**興世**は潛かに其の將の**黃道標**を遣わして七十舸を帥いて徑(ただ)ちに錢溪に趣き，營寨を立てしむ。己亥（１４日），**興世**は兵を引いて進みて之に據り，**靈秀**は禁ずる能わず。庚子（１５日），**劉胡**は自ら水步二十六軍を將して來たりて錢溪を攻める。將士は之を迎撃して撃（続の撃、據は×）たんと欲し，**興世**は之を禁じて曰く、

「賊の來たるは尚ほ遠く，氣は盛んにして而して矢は驟(はや)し。驟ければ既に盡き易く，盛んなるは亦た衰え易し，之を待つに如かず。」

將士に令して故の如く城を治めしめる。俄に而して**胡**は來りて轉(うた)た近づき，船は洄汐に入る。**興世**は**壽寂之**、**任農夫**に命じて壯士數百を帥いて之を撃たしめ，衆軍は相い繼ぎて並進し，**胡**は敗れて走り，斬首は數百，**胡**は兵を收めて而して下る。時に**興世**の城寨は未だ固からず，建安王の**休仁**は、**袁顗**が力を並(あわ)（続は幷）せて更に錢溪を攻めんとするを慮りて，其の勢を分けんと欲す。辛丑（１６日），**沈攸之**、**吳喜**等に

命じて皮艦（牛皮で艦を蔽い矢石を防ぐ）を以て濃湖に進攻せしめ，斬獲は千數。是の日，劉胡は歩卒二萬、鐵馬一千を帥いて，更に**興世**を攻めんと欲す。未だ錢溪に至らざること數十里，袁顗は濃湖之急なるを以て，遽（にわか）に之を追い，錢溪城は此に因りて立つを得る。胡は人を遣わして傳唱せしむ、
「錢溪は已に平らぐ」，
衆は並びて懼れ，**沈攸之**は曰く、
「然らず。若し錢溪が實に敗れれば，萬人中に應に一人は逃亡して還るを得る者有り。必ず是れ彼が戰いて利を失い，空聲（噓）を唱えて以で衆を惑わす耳。」
軍中に勒して妄動を得ず。錢溪の捷報は尋ぎて至る。**攸之**は錢溪の送る所の胡軍の耳鼻を以て濃湖に示し，袁顗は駭（おどろ）きて懼る。**攸之**は日幕（くく）（続は暮）れて引いて歸る。
■龍驤將軍の**劉道符**は山陽を攻め，程天祚は降を請う。

【劉胡と袁顗の敗走】

■［龐孟虯の敗北］龐孟虯は進みて弋陽（よくよう）に至り，**劉勉**は**呂安國**等を遣わして蓼潭（りょうたん）（河南省汝陽道固始県、現・信陽市固始県）に於いて迎撃して，大いに之を破り，孟虯は走りて義陽に向かう。**王玄謨**之子の**曇善**は兵を起こして義陽に據り以て建康に應じ，孟虯は走りて蠻中に死す。
■［劉胡の反撃］劉胡は輔國將軍の薛道標を遣わして合肥を襲わしめ，汝陰太守の**裴季之**（二月に劉勉に降る）を殺す，(8-066p)**劉勉**は輔國將軍の**垣閎**を遣わして之を撃たしむ。**閎**は，**閬**（129 巻孝武帝大明三年に見える）之弟。道標は，安都之子也。
■［鄭叔擧の挙兵、崔道固降伏］淮西人の**鄭叔擧**は兵を起こして常珍奇を撃ち以て**鄭黑**に應ず。辛亥（２６日），**叔擧**を以て北豫州刺史と為す。崔道固（歷城をもって尋陽に応ずる前正月にあり）は土人の攻める所と為り，閉門して自ら守る。**上**は遣使して宣慰し，道固**は**降を請う。甲寅（２９日），復た道固（元冀州刺史）を以て徐州刺史と為す。
■八月，皇甫道烈等は龐孟虯の敗れるを（続により補充）聞き，並んで開門して出でて降る。
■［張興世の慎重な姿勢］**張興世**は既に錢溪に據り，濃湖の軍の食は乏し。鄧琬は大いに資糧を送り，**興世**は畏れ，敢えて進まず。劉胡は輕舸四百を帥いて，鵲（しゃく）頭（揚子江内にある洲、故に内路外路あり）の内路に因りて錢溪を攻めんと欲し，既に而して長史の王念叔は謂う（続は曰く）、
「吾は少（わか）きときに歩戰を習うに，未だ水鬥（続は闘）を聞（続は閑）ぜず。若し歩戰ならば，恆に數萬人中に在り。水戰すれば一舸之上に在り，舸舸は各々進み，複た相い關せず，正に三十人の中に在り，此くは萬全之計に非ず，吾は為さざる也。」
乃ち瘧（ぎゃく）（おこり）疾に托して，鵲頭に住（とど）まりて進まず，龍驤將軍の陳慶を遣わして三百舸を將いて錢溪に向かわしめ，慶を戒めて、
「須らく戰わず。**張興世**は吾之悉くす所，自ら當に走るべき耳。」
陳慶は錢溪に至り，梅根に於いて軍す。
■［別將の王起の攻撃の失敗］胡は別將の王起を遣わして百舸を將いて**興世**を攻めしめ，**興世**は起を撃ちて，大いに之を破る。胡は其の餘の舸を帥いて馳せ還り，顗に謂って曰く、
「**興世**の營寨は已に立ち，猝（にわ）かに攻める可からず。昨日の小戰は，未だ損と為すに足らず。陳慶は已に南陵、大雷の諸軍と共に其の上を遏（とど）め，大軍は此に在り，鵲頭の諸將は又た其の下流を斷つ。已に圍の中に墮ち，復た慮るに足らず。」

覬は胡の戦わざるを怒りて，謂って曰く、
「糧運は鯁（喉に刺さった魚の骨）塞し，當に此は如何すべきか？」
胡は曰く、
「彼すら尚ほ流れを溯りて我の上を越えるを得，此の運は何を以て流れに沿いて彼を越えて下るを得ざらん邪！」
乃ち安北府司馬の沈仲玉を遣わして千人を將して南陵に歩して趣きて糧を迎えしむ。

■［仲玉の補給失敗］仲玉は南陵に至り，米三十萬斛，錢布數十舫を載せ，榜（木片）を豎てて城と為し，規りて突過せんと欲す。行きて貴口（安徽省蕪湖道貴池県、現・池州市貴池区）に至り，敢えて進まず，間信を遣わして胡に報じ，重ねて軍を遣わして援接せ令む。張興世は壽寂之、任農夫等を遣わして三千人を將して貴口に至り之を撃たしめ，仲玉は走りて顗の營に還り，悉く其の資實を虜す。胡の衆は駭懼し，胡の將の張喜は來たりて降る。

■［劉胡の逃亡と袁顗の困惑逃亡］鎮東中兵參軍の劉亮は兵を進めて胡の營に逼り，胡は制する能わず。袁顗は懼れて曰く、
「賊は人の肝脾の裡（続は裏）に入りて，何に由りて活きるを得んか！」
胡は陰に遁げ去るを謀り，己卯（２３日），覬を誑かして云う、
「更に歩騎二萬を帥い，上は錢溪を取り，兼ねて大雷の餘運を下さんと欲す。」
覬をして悉く馬を選びて之に配さ令む。(8-067p)其の日，胡は覬を委てて去り，遝に梅根に趣く。先ず薛常寶をして船を辦ぜ令め，悉く南陵の諸軍を發し，大雷の諸城を燒いて而して走る。夜に至り，覬は方に之を知り，大いに怒り，罵りて曰く、
「今年小子の誤る所と為る！」
常に乗る所の善馬「飛燕」を呼びて取り、其の衆に謂って曰く、
「我は當に自ら出でて之を追うかな！」
因りて亦た走る。

■［袁顗は左右に死を求める］庚辰（２５日），建安王の休仁は兵を勒して覬の營に入り，降卒十萬を納め，沈攸之等を遣わして顗を追わしむ。顗は走りて鵲頭に至り，戍主の薛伯珍と領する所の數千人を並せて偕に去り，尋陽に向かわんと欲す。夜，山間に止まり，馬を殺して以て將士を勞り，顧みて伯珍に謂って曰く、
「我は死す能わざるに非ず。且く一たび尋陽に至り，罪を主上に謝まり，然る後に自ら刎ねんと欲す耳。」
因りて慷慨し左右を叱りて節を索め，復た應ずる者無し。旦に及び，伯珍は人を屏けて事を言わんと請い，遂に顗の首を斬り，錢溪の馬（続は無し）軍主の襄陽の俞湛之に詣る。湛之は因りて伯珍を斬り，並せて首を送り以て己の功と為す。

■劉胡は二萬人を帥いて尋陽に向かい，晉安王の子勳を詐りて云う、
「袁覬は已に降り，軍は皆な散り，唯だ己のみ所領を帥いて獨り返る。宜しく速かに處分し，一戰之資と為すべし。當に停りて湓城に據り，誓いて死すとも貳あらず。」
乃ち江外（江中には洲があり、その外、北岸）に於いて夜汭口に趣く。

【晉安王子勳勢力の鎮圧】

■［鄧琬の死と張悦の降伏］鄧琬は胡の去るを聞き，憂惶して計無し，中書舍人の褚靈嗣等を呼びて之を

謀り，並びて出ずる所を知らず。張悦は詐りて疾と稱し，琬を呼びて事を計り，左右に令して甲を帳の後に伏せ令めて，之を戒めて、

「若し酒を索(もと)むるを聞けば，便ち出でよ。」

琬は既に至り，悦は曰く、

「卿は首として此の謀を唱え，今事は已に急なり，計は將に安くに出でんとするや！」

琬は曰く、

「正に當に晉安王を斬り，府庫を封じ，以て謝罪する耳。」

悦は曰く、

「今日（続により補充）寧ぞ殿下を賣りて活を求める可き邪！」

因りて酒を呼ぶ。子の洵（悦の子）は刀を提げて出で，琬を斬る。中書舎人の**潘欣之**は琬の死を聞き，兵を勒して而して至る。悦は人をして之に語りて曰わ使む、

「鄧琬は謀反し，今は已に梟戮(きょうりく)す。」

欣之は乃ち還る。琬の子を取り，並びに之を殺す。悦は因りて單舸にして琬の首を繼（続は齎）いで馳せ下り，建安王の**休仁**に詣りて降る。

■［沈攸之は晉安王子勲を斬り、尋陽制圧］尋陽は亂れる（主無く乱れる）。**蔡那**之子の**道淵**は尋陽に在りて作部（武器工房）に系を被り（続は無し），鎖を脱して城に入り，子勲を執り，之を囚える。**沈攸之**等の諸軍は尋陽に至り，晉安王の子勲を斬り，首を建康に傳える，時に年十一。（胡三省は晉安王の挙兵は義挙とする）

■初め，鄧琬は臨川内史の張淹を遣わして鄱陽（江西省澦陽道鄱陽県、現・上饒市鄱陽県）の嶠(きょう)道より三呉に入り，上饒に於いて軍せしめ，劉胡の敗を聞き，軍副の鄱陽太守の費暉は淹を斬りて以て降る。（江西省澦陽道鄱陽県より東南して豫章道上饒県に至る）淹は，暢（元嘉の末に世祖に従い徐州刺史となる）之子也。

■**廢帝**之世は，衣冠は禍を懼れ，鹹な遠く出るを欲す。是に至り外難に流離し，百に一も存せず，衆は乃ち**蔡興宗**之先見（事は前巻元年に見える）に服する。

■九月，壬辰（８日），山陽王の**休祐**を以て荊州刺史と為す。(8-068p)

■癸巳（９日），嚴を解き，大赦す。

■庚子（１６日），司徒の**休仁**は尋陽に至り，**吳喜、張興世を遣わして**は荊州に向かい，**沈懷明**をして郢州に向かい，**劉亮**及び寧朔將軍の南陽の**張敬兒**をして雍州に向かい，**孫超之**をして湘州に向かい，**沈思仁、任農夫**をして豫章に向かい，餘寇を平定せしむる。

■［劉胡は石城に逃亡し、斬死と論功行賞］劉胡は逃げて石城（竟陵の石城、湖北省襄陽道鐘祥県、現・荊門市鍾祥市）に至り，捕うを得，之を斬る。郢州行事の張沈變は形は（続は變じて）沙門と為り，潛かに走り，追いて獲え，之を殺す。荊州行事の劉道憲は濃湖の平らぐを聞き，兵を散じ，遣使して罪に歸す。荊州治中の宗景等は兵を勒して入城し，道憲を殺し，臨海王の子頊(ぎょく)を執りて以て降る。孔道存（雍州行事）は尋陽の已に平らぐを知り，遣使して降を請う。尋ぎて**柳世隆、劉亮**が當に至るを聞き，衆は悉く逃潰し，道存及び三子は皆な自殺す。**上**は何慧文の才の將吏（文武両道）を兼ねるを以て，**吳喜**をして旨を宣して之を赦さ使む。慧文は曰く、

「既に逆節に陷り，手ずから忠義を害し（王應之を殺す事），何の面(かんばせ)ありてか天下之士に見みえんや！」

遂に自殺す。安陸王の子綏、臨海王の子頊、邵陵王の子無は並びて死を賜い，劉順及び餘黨の荊州に在る者は皆な伏して誅す。詔して諸々の節に死する之臣に追贈し，及び功有る者に封賞すること各々差有り。

●［魏は初めて郡學を立つ］己酉（２５日），魏は初めて郡學を立て，博士、助教、生員を置き，中書令の**高允**、相州刺史の**李訔斤**之請いにを従う也。**訔斤**は，**崇**（頓丘の李崇とは別人）之子也。

■［世祖の子の皆殺し］**上**は既に晉安王の**子勳**等を誅し，**世祖**の諸子を待つこと猶を平日の如し。司徒の**休仁**は尋陽より還り，**上**に謂って曰く、
「松滋侯の兄弟は尚ほ在るは，將來の社稷の計に非ず，宜しく早に之が所を為すべし。」
冬，十月，乙卯（１日），松滋侯の**子房**、永嘉王の**子仁**、始安王の**子真**、淮南王の**子孟**、南平王の**子產**、廬陵王の**子輿**、**子趨**、**子期**、東平王の**子嗣**、**子悅**に並びて死を賜い，及び鎮北咨議參軍の**路休之**（路太后の子姪）、司徒從事中郎の**路茂之**（路太后の子姪）、兗州刺史の**劉祗**、中書舍人の**嚴龍**は皆な坐して誅す。**世祖**の二十八子は此に於いて盡くす矣。**祗**は，**義欣**之子也。
■［劉勉は壽陽を圍む］**劉勉**は壽陽を圍み，**垣閎**は合肥を攻め，俱に未だ下らず。**勉**は之を患えて，諸將を召して會議す。馬隊主の**王廣之**は曰く、
「將軍は乘る所の馬を得れば，判して（判断、決断、必ずや）能く合肥を平らげん。」
幢主の**皇甫肅**は怒りて曰く、
「**廣之**は敢えて節下の馬を奪わんとする，斬る可し！」
勉は笑いて曰く、
「其の意を觀るに，必ず能く功を立てん。」
即ち鞍を推し馬を下して之に與う。**廣之**は往きて合肥を攻め，三日，之に克つ。**薛道標**は圍を突して淮西に奔りて**常珍奇**に歸し，**勉**は**廣之**を擢して軍主と為す。**廣之**は**肅**（齊の世祖）に謂って曰く、
「節下は若し卿の言に從わば，何を以て賊を平らぐかな！**卿は**才を賞するにあらず，乃ち此に至る！」
肅は學術有り，**勉**の卒すに及び，更に**廣之**に依り，**廣之**は齊の**世祖**を薦して東海太守と為す。(8-069p)
■**沈靈寶**は廬江より兵を引いて晉熙（晋の安帝時代に廬江を分けて晉熙郡を置く、南豫州に属し懐寧・新冶・陰安・南楼煩・太湖左の五県。安徽省安慶道懐寧県、現・安慶市懐寧県）を攻め，晉熙太守の**閻湛之**は城を棄てて走る。

【薛安都は魏に逃亡し、北魏出兵】

■［薛安都らが魏に降を乞う］徐州刺史の**薛安都**、益州刺史の**蕭惠開**、梁州刺史の**柳元怙**、兗州刺史の**畢衆敬**、豫章太守の**殷孚**、汝南太守の**常珍奇**は，並びて遣使して降を乞う。**上**は南方の已に平らぐを以て，威を淮北に示さんと欲し，乙亥（２１日），鎮軍將軍の**張永**、中領軍の**沈攸之**に命じて甲士五萬を將して**薛安都**を迎えしむ。**蔡興宗**は曰く、
「**安都**の歸順は，此れ誠に虛に非ず，正に須らく單使にて書を尺すべし。今重兵を以て之を迎えれば，勢いは必らず疑い懼るべし。或は能く北虜（北魏）の引くを招き，患と為りて方に深し。若し叛臣を以て罪重ければ，誅せざる可からざれば，則ち之向（続は 彙（さきに））に宥す所亦た已に多きかな矣。況んや**安都**は外は大鎮に據り，邊陲（へんすい）に密邇し，地は險しく兵は強く，攻圍して克ち難く，之を國計に考えるに，尤も宜しきは馴れ養うべし。其の外叛の如くせば，將に朝廷の旰食（かんしょく）（夜遅く食事を取る、宵衣旰食で朝早くから夜遅くまで政務に励むこと）之憂いと為らん。」
上は從わず，征北司馬の行南徐州事の**蕭道成**は謂って曰く、
「吾は今此に因りて北を討たん，卿の意は以て何如（いかん）と為すか？」
對えて曰く、

「安都は狡猾にして餘り有り，今兵を以て之に逼(せま)るは，國之利に非ざるを恐れる。」
上は曰く、
「諸軍は猛鋭にして，何の往きて克たずや！卿は多言すること勿かれ！」
安都は大兵の北上するを聞き，懼れ，遣使して魏に降を乞い，常珍奇も亦た懸瓠を以て魏に降り，皆な兵を請いて自ら救う。
■戊寅（２４日），皇子の昱を立てて太子と為す。
■［薛安都に呼応して魏は彭城懸瓠に進出］薛安都は其の子を以て魏に質と為し，魏は鎮東大將軍の代人の尉元、鎮東將軍の魏郡の孔伯恭等を遣わして騎一萬を帥いて東道に出で，彭城を救わしむ。鎮西大將軍の西河公の石（魏の宗室）、都督荊、豫、南雍州諸軍事の張窮奇をして西道に出で，懸瓠を救わしむ。安都を以て都督徐、雍等五州諸軍事、鎮南大將軍、徐州刺史、河東公と為す。常珍奇を平南將軍、豫州刺史、河內公と為す。
■兗州刺史の申纂は詐りて魏に降り，尉元は之を受け，而して陰に之が備えを為す。魏の帥は無鹽に至り，纂は閉門して拒み守る。
■［畢衆敬の躊躇と悔恨］薛安都之魏兵を召く也，畢衆敬は之と同じぜず，遣使して來りて降を請う。上は衆敬を以て兗州刺史と為す。衆敬の子の元賓は建康に在り，先に宅に坐して罪は誅せらる。衆敬は之を聞き，怒りて，拔刀して柱を斫りて曰く、
「吾が皓首(こうしゅ)（白髪の首）は唯だ一子，全くす能わず，安んぞ獨り生きるを用いん！」
十一月，壬子（２９日），魏師は瑕丘に至り，衆敬は魏に降を請う。尉元は部將を遣わして先ず其の城に據らしめ，衆敬は悔恨して，數日食べず。元は長驅して而して進み，十二月，己未（６日），秅（山東省濟寧道城武県、現・菏沢市成武県）に軍す。
■［西河公石の入城と常珍奇の去就］西河公の石は上蔡に至り，常珍奇は文武を帥いて出でて迎える。石は軍を汝北に頓せんと欲し（続は未だ）即ち入城せず（続により補充、懸弧城は汝水の南），中書博士の鄭羲は曰く、
「今珍奇來ると雖も，意は未だ量る可からず。直ちに其の城に入り，其の管鑰(かんやく)（鍵）を奪い，府庫に據有し，其の腹心を制すに如かず，(8-070p)策之全くする者也。」
石は遂に馬を策(むちう)ちて入城し，因りて酒を置き嬉戲す。羲は曰く、
「珍奇之色を觀るに甚だ平らかならず，之の備え（続による、力を求む×）を為さざる可からず。」
乃ち兵を嚴にして備えを設ける。其の夕，珍奇は人をして府屋を燒か使め，變を為さんと欲し，石に備え有るを以て而して止む。羲は，豁之曾孫也。
●［魏は淮西七郡の民を慰撫］淮西七郡（汝南・新蔡・汝陽・汝陰・陳郡・南頓・潁川）の民は多く魏に屬するを願わず，營を連ねて南に奔る。魏は建安王の陸馥(りくふつ)（陸麗の兄）を遣わして新附を宣慰す。民の軍に陷いり奴婢と為る者有り，馥は悉く之を免じ，新しい民は乃ち悅ぶ。
■［尋陽に附く者の復帰］乙丑（１２日），詔して尋陽に附くに依りて坐し官爵を削り禁錮する者，皆な原蕩（続は籍）に從い，才に隨いて銓用（選考任命）す。

【壽陽の殷琰の投降】

■［劉勉の壽陽包囲］劉勉は壽陽を圍み，首春より末冬に至り，內攻外御し，戰いて捷たざる無く，寬厚を以て將士の心を得る。尋陽は既に平らぎ，上は中書をして詔を為して殷琰に論さ使め，蔡興宗は曰く、
「天下は既に定まり，是れ琰が過ちを思う之日なり。陛下は宜しく手ずから賜いて數行を詔して以て相

い慰さめ引くべし。今直だ中書をして詔を為せば，彼は必ず疑いて真に非ざるを謂い，速かに方難を清める所以に非ざる也。」

従わず。琰は詔を得，劉は輒ち（続は劉勔）之を詐りて為ると謂い，敢えて降らず。杜叔寶は尋陽の敗問を閉絶して，傳える者有れば即ち之を殺し，守備して益々固し。凡そ降る者有れば，上は輒ち壽陽の城下に送り，城中の人と語ら使め，是に由りて衆の情は離れて沮（挫ける）す。

■［殷琰の投降］琰は魏に降を請わんと欲し，主簿の譙郡の夏侯詳は琰を說いて曰く、

「今日之舉は，本は忠節を效す。若し社稷に奉ずる有れば，便ち當に身は朝廷に歸すべく，何んぞ左衽（周や楚などの国は左を尊んだ左衽さじんとは、えりを左前に合わせること）に北面する可き乎！且つ今魏軍（西河公石の軍）は近く淮次に在り，官軍は未だ吾之去就を測らず，若し遣使して款を歸せば，必ず厚く相い慰めて納れ，豈に止だ罪を免かるるに而して已む。」

琰は乃ち詳をして出でて劉勉を見せしめ、詳は勉を說いて曰く、

「今城中の士民は困しむを知り而して猶ほ固守する者は，將軍之誅を畏れ，皆な自ら魏に歸さんと欲す。願わくは將軍は緩かにして而して之を赦さん。則ち（続は相い）帥いて而して至らざるは莫し矣。」

勉は許諾し，詳をして城下に至ら使め，城中の人を呼び，勉の意を以て諭す。丙寅（１３日），琰は將佐を帥いて面縛して出でて降り，勉は悉く慰撫を加え，一人も戮さず。入城し，將士に約勒し，士民の貲財は，秋毫も失う所無く，壽陽の人は大いに悅ぶ。魏兵は師水（河南省汝陽道信陽県にあり、現・信陽市周辺）に至り，將に壽陽を救わんとす。琰の已に降るを聞き，乃ち義陽の數千人を掠めて而して去る。之久しく，琰は復た仕えて少府に至り而して卒す。

【益州蕭惠開は戰いて許される】

■［益州の情勢、蕭惠開は包囲される］蕭惠開は益州に在り，多く刑誅に任じ，蜀人は猜怨す。費欣壽の敗沒し（この年六月にあり），程法度は前むを得ずを聞き，是に於いて晉原（李雄は蜀郡の江原臨邛を分けて漢原郡とし、晉の穆帝は晉原と改める、四川省西川道崇慶県、現・成都市西部と雅安市北部、崇州市、郡治は江原）の一郡は反し，諸郡は皆な之に應じ，兵を合わして成都を圍む。城中の東兵は二千に過（続は満）ぎず，(8-071p)惠開は悉く蜀人を遣りて出でしめ，獨り東兵と拒みて守る。蜀人は尋陽の已に平らぐを聞き，爭いて城を屠らんと欲し，衆は十餘萬人に至る。惠開は兵を遣わして出で戰わせる毎に，未だ嘗て捷たざるなし。

■［蕭惠基の援軍到達］上は其の弟の惠基を遣わして陸道より成都に使いし，惠開の罪を赦さしむ。惠基は涪に至り，蜀人は惠基を遏留（遮り留め）して，進むを聽さず。惠基は部曲を帥いて之を擊ち，其の渠帥を斬り，然る後前むを得る。惠開は旨を奉じて歸り降り，城の圍いを解くを得る。

■［蕭惠開は寶首を破りて帰還す］上は惠開の宗人の寶首を遣わして水道より益州を慰勞せしむ。寶首は蜀を平らぐを以て己の功と為さんと欲し，更に蜀人を獎說（奬励説得）し，惠開を攻め使む。是に於いて處處は蜂起し，凡そ諸々の離散する者は一時に還りて合し，寶首と與に進みて成都に逼り，衆は二十萬と號す。惠開は之を擊たんと欲し，將佐は皆な曰く、

「今慰勞使は至る、而るに之を拒めば，何を以て自ら明らかにするや？」

惠開は曰く、

「今は表啟の路は絕え，戰わずして則ち何を以て京師に通使するを得んや？」

乃ち宋寧太守の蕭惠訓等を遣わして萬兵を將して與に戰わしめ，大いに之を破り，寶首を生け擒りにし，成都に囚にし，遣使して言狀す。上は寶首を執りて送ら使め，惠開を召して建康に還らしむ。既に至り，

上は舉兵の狀を以て問う。**惠開**は曰く、
「臣は唯だ逆順を知り，天命を識らず。且つ臣に非らざれば亂れず，臣に非らざれば平らがず。」
上は之を釋す。

【尉元は彭城に至り，薛安都と微妙】

■［兗徐青州を魏に取られて配置変更］是の歲，兗州を僑立し，淮陰に治す。徐州は鐘離に治す。青、冀二州は共に一刺史とし，郁洲（続は鬱州、江蘇省徐海道灌雲県東北、現・連雲港市灌雲県）に治し，郁洲は海中に在り，周は數百里，石を累して城と為し，高は八九尺，郡縣を虛置し，荒民は幾（いくばく）も無し。
■**張永、沈攸之**は兵を進めて彭城に逼り，下蓋（江蘇省徐海道銅山県、現・徐州市銅山区）に軍し，羽林監の**王穆之**を分遣してと卒五千を將して武原（江蘇省徐海道邳県西北、現・徐州市邳州市）にて輜重を守らしむ。
●［魏の尉元は彭城入場］魏の**尉元**は彭城に至り，**薛安都**は出でて迎える。**元**（降るを受けることは敵を受けるが如しと、尉元はこれを得たり）は**李璨**を遣わし**安都**と與に先に入城させ，其の管籥を收めしむ。別に**孔伯恭**を遣わして精甲二千を以て內外を安撫せしめ，然る後に入る。其の夜，**張永**は南門を攻め，克たず而して退く。
■［魏の尉元と薛安都の微妙な関係］**元**は**薛安都**に禮せず，**安都**は降るを悔い，復た魏に叛さんと謀る。**元**は之を知り，發するを果たさず。**安都**は重く**元**等に賂し，女婿の**裴祖隆**に罪を委ねて而して之を殺す。**元**は**李璨**をして**安都**と與に遣わして彭城を守らしめ，自ら兵を將いて**張永**を擊ち，其の糧道を絕ち，又た**王穆之**を武原にて破る。**穆之**は餘衆を帥いて**永**に就き，**元**は進みて之を攻む。

令和 1 年 6 月 17 日　翻訳開始　12085 文字
令和 1 年 7 月 17 日　一応完了　20353 文字
令和 2 年 5 月 28 日　翻訳完了　22403 文字
令和 3 年 9 月 19 日　書下し終了 25150 文字